



オリジナルの「江戸手作り眼鏡」を製作・販売



私のこだわり
ものづくり

有限会社四喜

真野進方 代表取締役

昭和41年東京都足立区生まれ
平成21年に社長就任

◆住所: 西東京市東町4-15-13
◆電話: 042-422-9210

真野眼鏡 検索

「江戸手作り眼鏡」と名付けたオリジナルの眼鏡をかける真野社長

子どものビジョン
トレーニングも実施

西武池袋線保谷駅南口にある真野眼鏡保谷店は真野進方社長の父、真野晴夫氏が昭和42年に創業。以来、眼鏡専門店として

半世紀にわたり眼鏡や眼鏡雑貨などの販売と修理を行ってきた。近年は真野社長手作りのオリジナル眼鏡も販売し、注目されている。

同店がこだわっているのが、個々のお客さまの顔や全身のスタイルに合った眼鏡の提案。目や鼻の位置は一人一人違い、肉付きも肌の色も異なる。眼鏡は顔に乗せて完成するものなので、選ぶ眼鏡によって、顔や全身の印象がかなり変わる。

「顔に合った眼鏡をかけることで、心地よいフィット感が得られるだけでなく、顔がきれいに見えます。また、眼鏡によって小顔に見えたり、背が高く見えたりもします」と真野社長は話す。

同店では、子どもの視力のケアにも力を入れる。まず、眼鏡で視力を育て、両目できちんと見える状態にする。特に弱視の子は、正しい位置で眼鏡を掛けることが視力を育てるのにも大切だ。それでも、目の使い方や空間認識力などの視覚が未発達な子には視覚認知検査を実施後、正しく見るための「ビジョントレーニング」を行う。それによって、眼球ばかりでなく脳や体に理想的な習慣をつけ、正しく見て柔軟に思考する土台作りを行っていく。

真野社長は高校卒業後、眼鏡の専門学校に入学し、視力の測定方法やレンズの加工方法などを学んだ。卒業後、眼科医院で視力検査員

を3年、眼鏡関連のチェーン店で2年働いた後、平成2年に有限会社四喜を設立。静岡県のシヨップングセンター内にメガネサロンを出店した。

その後、父親から保谷店を引き継ぎ、新たに新店した吉祥寺店内に工房を開いて眼鏡製作を始めた。「量産品ではない、個々の顔に適したデザインの眼鏡を作りたい」と、江戸の伝統技法で眼鏡を作っている都内唯一の職人に弟子入りし、眼鏡作りを一から学んだ。

アセテートやセルロイドなど天然素材の樹脂の板に自らデザインしたフレームをトレースし、糸のこぎりで切り出す。磨いたり、溝を掘ったり、240もの工程を一人でこなすため、1本を完成させるのに1〜2カ月かかる。今、挑んでいるのが天然素材の樹脂と突板を組み合わせて作る木の風合いを生かしたフレーム作りだ。

真野社長は「眼鏡作家という新しいジャンルを確立し、眼鏡業界を活性化させていきたい」と意欲に燃える。



多種多様な眼鏡からお客さまに最適なものを提案



江戸手作り眼鏡の製作現場
(真野眼鏡吉祥寺市内)

西東京市産業振興課 INFORMATION

西東京市

姉妹・友好都市観光物産展

【日時】5月21日(日)午前10時から午後4時まで
【会場】田無駅北口「アスタ」2階センターコート

西東京市の姉妹・友好都市である、福島県南会津郡下郷町、山梨県北杜市(須玉町)、千葉県勝浦市の3都市の観光PRを目的とした特産品の販売を行います。本物産展は、平成14年から開催し、今年で16回目となります。



毎年好評の物産展

西東京市産業ニュース 匠ナビ

西東京市の注目の企業・事業所のホットな情報をお届けする本誌は、年4回(4月・7月・10月・1月)発行しています。市内企業・事業所へのマッチング、商談などのご相談は、西東京市産業振興課までお問合せください。

産業振興課・商工係 ☎042-438-4041

